

議事 1. (2) 市民ヒアリングの内容について (報告書(案) P26～28 抜粋)

10 月 21 日(10 時 00 分～)に市民ヒアリング調査を実施した。その結果をまとめる。

【目的】

市民の実体験に基づく被害の実態や問題点を把握し、今後の対策につなげるため

【ヒアリング対象者】

大牟田市校区コミュニティ連絡協議会：5 名

大牟田市民生委員・児童委員協議会：12 名

【ヒアリングの概要】

(1) 被害の状況

- ・被害箇所や被害の程度
- ・被害箇所の復旧状況

(2) 災害時の対応

- ・災害時の行動内容
- ・消防等の対応

(3) 避難所について

- ・避難所で困った事

(4) 問題点、今後の課題について

- ・今回の災害を踏まえて今後改善していくべき事

【主な意見】

(1)被害の状況

- ・白銀川上流の河川が氾濫をしていた。左岸側の田園地帯に被害が多く、現在も復旧できていない。
- ・上内地区にて、南関へ向かう途中の橋で両サイドの護岸が被災し通行止めになっているが、生活道路のため困っている。(復旧まで2〜3年)
- ・三池地区では、用水路から堂面川に排水できず、地盤が低い箇所に水が集まり、浸水していた。
- ・新築にもかかわらず、床上床下浸水となった住居が多かった。
- ・七浦川が氾濫していた。(過去の降雨でも氾濫している)
- ・右岸と左岸で堤防が低い箇所の浸水被害が大きかった。
- ・天の原校区には調整池があるが、今回は能力以上の雨が降って浸水してしまった。
- ・橋に流木等が引っ掛かり、水があふれて床上浸水になった箇所がある。

(2)災害時の対応

- ・明治校区では、2階建てで頑丈な施設と協力協定を結んでおり、今回もそこに避難した方がいた。
- ・一人暮らしの高齢者は、避難を呼びかけても動かせない方が多い。
- ・ハザードマップで浸水する危険性があることは判っていたため、周囲へ危険性の呼びかけや避難方法の共有等を行った。
- ・市の職員が、周囲の情報を地域の代表者と共有しながら、安否確認等の対応に当たってくれた。
- ・警察等に連絡してもつながらなかった。
- ・消防車が水につかって動けなくなっていた。消防署等に連絡したが、多くの連絡が寄せられており、来ることはできないと言われた。
- ・浸水するまでの時間が短く、避難が難しかった。

(3)避難所について

- ・倉永小学校において、これまでの災害時は多くて10人程度が避難していたが、今回は70数名の方が避難された。これに対して、避難所の運営は市職員含めて4人だった。段ボールベッドを組み立てる時間もなかった。
- ・避難所であるみなと小学校と三川公民館が浸水し、近づけなかった。
- ・避難所にて、具合が悪い方への配慮を民生委員で行っていた。
- ・有明高専が指定避難所になり、民生委員が避難所運営のため向かったが、食料や毛布が無く、自力で調達することとなった。

- ・避難所にスロープが無い場所や、トイレが遠い(または和式)場所があり、高齢者等は移動が難しかった。
- ・避難先にバリアフリーのトイレがあるかどうかの情報が分かっていなかった。
- ・避難所運営に当たる市の職員には、医療用マスク、オーバークラス、医療用手袋を支給してほしい。
- ・コロナの影響で避難所の人数制限があり、避難所に入れない方がいた。

(4)問題点、今後の対策について

- ・現在、ボランティアの方に復旧を手伝っていただいているが、少人数のため早期復旧は難しい。今後の復旧に向けた対応を教えてください。
- ・今後、どのような水の流れて排水するかを検討してほしい。(ポンプは無い自然排水区では、河川水位が上昇すると排水が困難になるため。)
- ・以前台風と大潮が重なった際に堂面川が決壊しかけた。一部堤防の嵩上げをしてもらえたが、白川校区には旧堤防のままの場所がある。
- ・ボートがもっとあれば役に立ったと思う。(自衛隊が持ってこられたボートがとても役に立っていた。)
- ・浸水の影響で避難所に行けなかった。各自で判断して行動できるようにするべき。地域として情報の共有化を素早く行う方法を検討するべき。
- ・三川ポンプ場の増設は訴えていた。今後増設してほしい。
- ・どこから水が流れてくるかの周知が必要と思う。(ハザードマップなどの記載事項として)
- ・市民に分かりやすいハザードマップを作してほしい。(現在のものは作成条件や対象降雨などが分かりにくい。)